

寝具素材の変遷



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。
羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。
今回は、移り変わってきた寝具の素材について…。

近代の寝具の素材について振り返って見てみると、最初に庶民に親しまれていた寝具は綿ふとんで間違いありません。只、一部の富裕層の間では超高級品である真綿ふとんも使われていたようです。昨今は、綿ふとんと真綿ふとんの違いが判らない若者も少なくはないご時世です。戦後、寝具の歴史を大きく変えるきっかけとなったのが化学繊維の出現です。化学繊維は、ふとんにすると軽くて暖かく綿布団に比べて数段利便性の高い寝具となりました。只、軽くて暖かい事だけが寝具の優位性を表すものではなく、体から出てきた水分の処理をどうするかという事も寝具の条件の一つで、吸湿と放湿という機能が問われたのです。綿ふとんは吸湿性には優れていますが放湿性が劣るため毎日のふとんの日干しが大変でした。化学繊維のふとんは、軽くて暖かいのですが、吸湿性がないため、蒸れてしまうという大きな弱点がありました。そこでこれまでの寝具の弱点を補う事の出来る動物性繊維である羊毛が脚光を浴びることとなり、寝具店の店頭には羊毛ふとんが並ぶようになったのです。羊毛綿はセーターなどにも使われ機能的には、すでに庶民にその良さが受け入れられていましたから羊毛ふとんは、適度に軽く、温かく、吸湿、放湿性に優れていることから寝具業界に革命をもたらすかと期待されました。しかし、羊毛は、フェルト化という決定的

な弱点を持っていたため、ふとんの打ち直しができず耐久性に難がありました。その後いろいろと改良されましたが、寝具の王様とはなりえなかったのです。実はこの間、これまでのどの素材よりも優れた寝具がひっそりと存在していたのです。それが羽根ふとんです。今ではダウン混合率が50%以上のものを「羽毛ふとん」、50%未満のものを「羽根ふとん」といいますが。当時は総称して羽根ふとんと呼んでいました。羽根ふとんは、だいぶ前から日本にありましたが、あまりにも高価で庶民には馴染めなかった為、普及の拡大には至りませんでした。しかし、物品税の廃止や日本経済の急成長とともに、所得の向上と高級化志向も相まって羽根ふとんが急激な普及を遂げたのです。当初、羽根ふとんが普及し始めたころは、ダウン率は50%前後のものが主流であった為、羽根ふとんと呼んでいました。しかし、普及とともにダウンの占める割合が高くなり羽根ふとんという呼び方は時代にそぐわないという事で、「羽毛ふとん」と、「羽根ふとん」に呼称を分けたのです。羽毛ふとんの普及は成長期を超え安定期に入っています。通常は安定期に入る直前から新しいものが、ちらほらと出てくるものですが、未だに、羽毛ふとんを超える寝具は登場していません。この事実こそが、「羽毛ふとんが寝具の王様である」証ではないでしょうか。



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

[編集発行] 日本羽毛製品協同組合

[事務局] 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

第23回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催。



平成29年9月5日、中国安徽省桐城金瑞古井大酒店にて、第23回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催致しました。

日本から日本羽毛製品協同組合加盟社を中心に38名、中国から中国羽絨工業協会関係者206名、台湾から台湾区羽毛輸出業同業協会関係者49名、合計293名が参加し、情報交換や市場報告が行われました。

5日午前の三方会議では開催国中国の、中国羽絨工業協会姚小蔓理事長の挨拶に続き、日羽協の柳場弘前理事長、河田敏勝新理事長の挨拶があり、その後日本、台湾、中国から、それぞれ市場

報告がありました。

午後の中国良質羽毛原料及び産地説明会では、広東吳川、安徽六安などの欧州産高級羽毛と比較しても遜色ない品質の羽毛の紹介がありました。当組合は従来より羽毛の品質を検査し、そのランクに応じて品質推奨ラベルを発行しており、産地にとらわれない評価方針の継続を確認しました。



河田敏勝新理事長

羽毛製品講習会を開催いたしました。【羽毛ふとんの知識啓発事業】

くらしのセミナー（群馬県前橋市）



平成29年2月17日(月)群馬県前橋市前橋テルサにて、前橋市消費生活センターの依頼により羽毛製品講習会を実施いたしました。会場には、一般消費者の方が約40名が集まり、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の立花功氏、新津利子氏による講習の後、質疑応答が行われました。

質疑応答では、羽毛製品のお手入れ方法や、羽毛ふとんのリフォームについて多くの質問が寄せられ、後日前橋市消費生活センターより、お礼状とご参加頂いた皆様の声を頂戴いたしました。

参加者の声

羽毛製品の家庭でのお手入れ方法がわかりよかったです。

実際に手で触れて羽毛ふとんの品質の差がわかり勉強になりました。

ダウンジャケットの洗いが大変参考になりました。

リフォームについて知ることができてよかったです。

羽毛製品講習会（福島県伊達市）



平成29年6月27日(火)福島県伊達市役所にて、伊達市消費生活センターの依頼により羽毛製品講習会を実施いたしました。25名の参加者にお集まりいただき、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の岡本八大氏、佃光明氏による講習を行いました。

講習後の質疑応答では、普段疑問に思っていることや講習会で初めて知ったことをより詳しく知りたいと、多くの皆様よりご質問をいただき、後日伊達市消費生活センターより、大変お役立ていただけたとお礼状を頂戴いたしました。

羽毛製品アドバイザー派遣を行っております。

1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

2. 講師派遣に関する費用及び人数

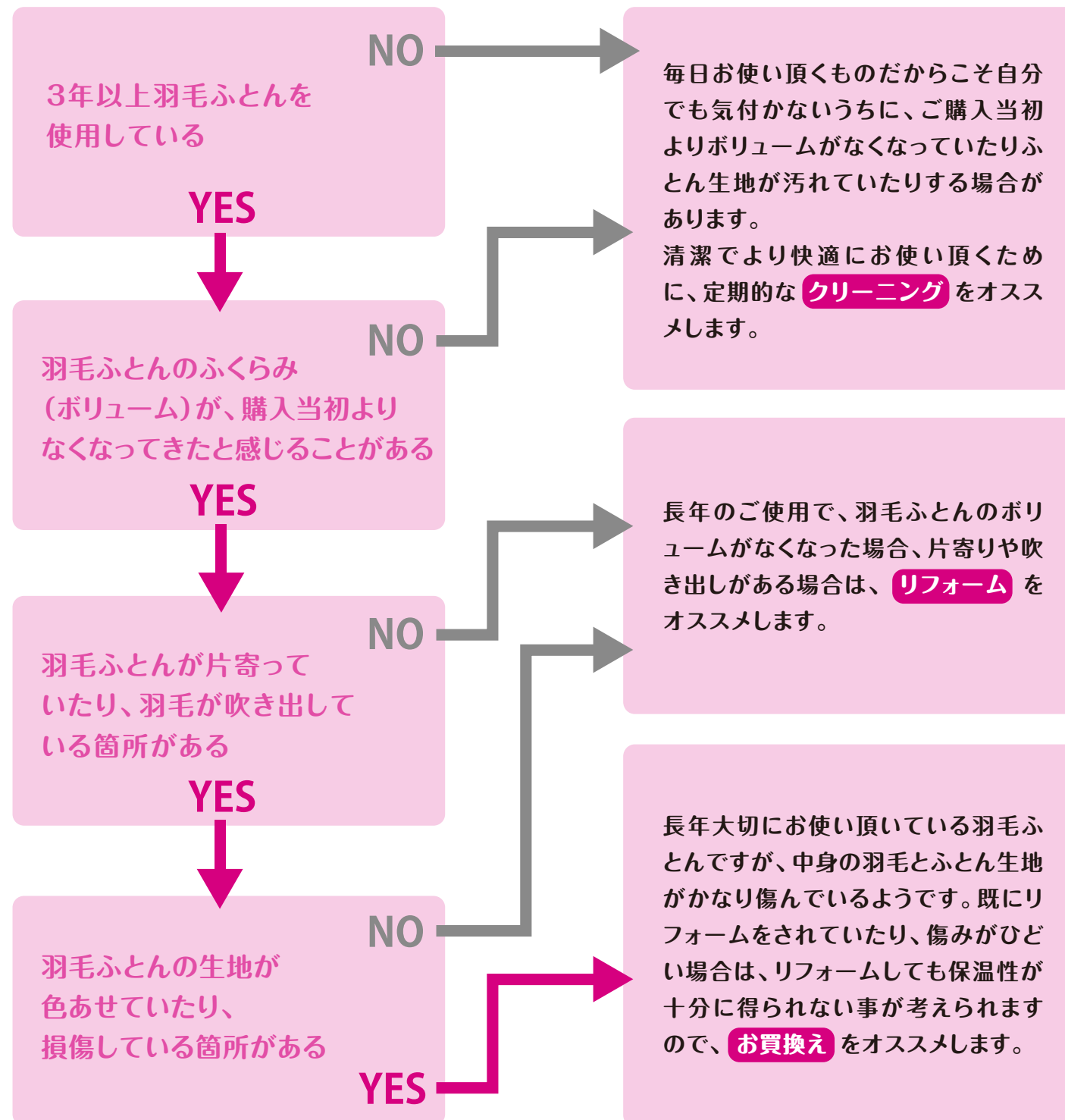
講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。 電話 03-5649-2285

羽毛ふとんの愛情診断してみませんか？

羽毛ふとんは長年ご使用されることで、汗や脂などの汚れと共に羽毛も損傷し暖かさが低下いたします。
定期的なお手入れを行う事で、快適にお使い頂くことができますが、何を目安にすればよいかなかなか分からないもの。
そんなあなたのために、いくつかの質問に答えるだけで、簡易診断できるものをご用意しました。



クリーニング とは、車で例えるなら洗車です。

羽毛ふとんは、専門工場でクリーニングをすることで、見た目の汚れを落とすだけでなく、目に見えない汚れまで洗い流せるので衛生的に使え続けます。

- 羽毛ふとんのクリーニングは、全国ふとんクリーニング協会加盟店で
全国ふとんクリーニング協会
東京都大田区東雪谷 3-12-16 電話 03 (3726) 0872



リフォーム とは、車で例えるなら部品交換です。

リフォーム認定工場では、傷んだ羽毛を取り除き、汚れた羽毛を綺麗にして再利用することで、羽毛ふとんを心地よく生まれ変わらせてくれます。

- 羽毛ふとんのリフォームは、日羽協のリフォーム認定工場
www.nichiukyo.org/overview/reform/

日羽協 リフォーム 🔍 検索



お買換え とは、車で例えるなら新車に乗り換えです。

羽毛ふとんの性能も日々進歩しています。新しい羽毛ふとんにお買い替えいただくことで、最新のテクノロジーを実感していただけます。

- 新しい羽毛ふとんは、日羽協加盟メーカーの品物が安心です
www.nichiukyo.org/overview/member/

日羽協 加盟社 🔍 検索





日本の寝具の歴史 ③

ふとんの移り変わり

ふとんが寝具の名前として通用しはじめたのと時を同じくして、古来の衾ふすまが夜着よぎという名で呼ばれるようになりました。夜着も衾と同様に襟・袖がつき、綿わたの入った今日の丹前かいまきや搔卷かきまきのようなものでしたが、ふとんの場合と同じく木綿を素材としたものが多かったようです。

さて、江戸時代の寝具は「夜着・ふとん」によって代表されるようになり、井原西鶴の「浮世草子」や十返舎一九の「滑稽本こっけいほん」（東海道中膝栗毛など）をみても、寝具については必ず夜着・ふとんが対句として使われています。

とはいっても、夜着・ふとんが江戸時代の一般家庭にひろく普及したかというところではなく、それはまず「遊廓」で発達したことが注目されます。

近世初頭の遊廓は、芸能はもちろん、時代の風俗をリードする流行の中心として華やかな脚光を浴びました。ことに遊女といっても最高級たゆうの太夫ともなれば、その名が全国に知れわたるほどのスター的存在でもありました。しかし、なにしろ身分の差別にやかましい封建時代に発展した社会であっただけに、遊女の間にも格かくに応ずる階級制度が定まっていた。一般的にいうと、太夫の下に、天職てんしよく（天神）・囲職いしよく・端

女めの区別があり、さらにまた端女あげだいの中にも揚代あげだいに応じて、三匁取・二匁取・一匁取・五分取の差別がありました。こうした遊女の身分差別はそのまま、彼女たちに許される寝具でも格付けられていました。そのもっとも特徴的なものは“蒲団の枚数”で「太夫は三ッ蒲団、天職は二ッ蒲団、囲職は一ッ蒲団」と定まっていた。

西鶴の代表作『好色一代女』の主人公は、太夫としてデビューしましたが、お高く留まりすぎたことが禍わざわいして客足が遠のいたため、天神てんじん（天神）に格下げされると「はやその日より寝道具も替り蒲団ふたつ」になりました。この主人公はつぎつぎに転落の一途をたどり、囲職におとされると「ひとつ蒲団の床に入り」となり、三匁取になると中紅なかつく（中等の紅絹）の蒲団を下女がとり、二匁取りは同じ蒲団を自分でとり、一匁取になると寝簾ねむしろ、五分取は幅の狭い寝簾さむしろ（狭簾）をといたぐあいに歴然とした差があらわれました。

遊廓の風俗は浮世絵版画の題材としても持てはやされましたが、錦絵を大成した鈴木春信すずき はるのぶの版画をみると、遊女の寝道具が、三ッ蒲団、二ッ蒲団と見分けがつくようにはっきり表現されています。もちろん歌麿うた まろの錦絵にも、浮世

草子の挿絵にも、三ッ蒲団が描かれている場合は太夫の寝室と定まっていた。

太夫の三ッ蒲団がいかほど高価なものであったかは、少し時代が下がりますが、文化13年（1816）の「世事見聞録せじけんぶんろく」の序文によると、太夫は「夜具蒲団にも五十両百両の入用がかかった」とか、「夜具の百両は三百俵に当るなり」とあることによっても想像がつきます。米穀三百俵は120石に相当しますので、その本にも「武士の分限、百姓の身上に引き当てては、莫大なる事どもなり」とあるように、これは誠に高価なもので一般庶民にはまさに高嶺の花であったことがわかります。

一般庶民だけでなく当の遊女にとっても高価な寝道具を自前で揃えることは大変ですから馴染みのお大尽に無心します。といっても「夜具の百両」はなかなかの大金ですから、うかつにせびると

三ッ蒲団 うんといったがそれっきり
（柳多留）

と もうそれっきり客足がとぎれてしまうことにもなりかねません。

本惚れと 見抜いて夜具を ねだる也
度胸を 見定めて夜具を 頼む也

とたのむ遊女もいたって慎重、いわゆる手錬てれんて手くた管を尽くすことになります。

だまされた 人へ三井は 夜具を売り
三井越後屋呉服店（越後屋）の三井八郎右衛門は、遊女の口説にだまされた客と知りつつも大金で夜具を売るというわけです。



イメージ